

旧堀切小学校があった田原市は、南海トラフ地震で最大21メートルの津波が襲う想定だ。小学校から安全な場所までの距離は630メートル。全児童の命を守るため取り組んだ避難訓練とは。

# 旧堀切小学校の津波避難訓練

## 津波から児童の命を守れ 持久走で鍛えた逃げる力

田原市にあった旧堀切小学校の元校長の糟谷幹生先生に、小学校での津波対策についてお話を聞いた。

糟谷先生は、東日本大震災が起きた1カ月ほど後に堀切小学校の校長になったそうだ。すぐに堀切小学校の津波の避難対策が「大丈夫なのか？」

と思う、見直しをしたという。糟谷先生が思ったのは、「津波のとき、児童たちが学校のどこにいても避難場所まですぐに逃げられるようにしたい」ということだった。

「玄関で上履きを履き替えている間に合わないのに、逃げ遅れないように上履きを変えた。走って逃げる時に危なくないように底が厚く、脱げにくい靴だ。防災用のヘルメットを置く場所も、廊下に変更して、逃げるときに児童が持ちやすくなる工夫もした。」

とくに力を入れたのは避難訓練で、何回も繰り返ししたという。子どもたちが津波から走って避難できる体力をつけるために、週に3回、休み時間に5分間の持久走をしたり、グラウンドを5周する宿題を出したりしたそうだ。

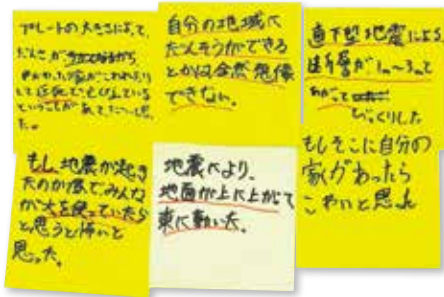
避難訓練では、整列をしないで、子どもたちはそれぞれ避難に走り出すようにしたが、最初のころはパニックになって走れない子どももいたという。

先生が背負子に乗せたり、リアカーで連ねたりしたということだった。訓練をどんどんしていくうちにパニックになる子どももいなくなったという。最初の訓練では、安全な場所まで20分以上かかっていたけれど、反復を生かして、たくさん練習をして、最終的に全員が15分を切れるようになったそうだ。



旧堀切小学校の糟谷幹生・元校長

田原市では、みんなが南海トラフ地震のことを意識していて、すごいなと思った。地震対策は、場所によってそれぞれ違うけれど、どこに住んでいても、一人ひとりが防災に対して強く意識していくことが、被害を少なくできる方法だと思った。



青山 つばみ 記者



堀切市民館で旧堀切小学校の避難訓練について話を聞いた



2年生授業 陸上を走る津波(時速40キロ)

津波のスピードを体感する旧堀切小学校の避難訓練



2・3階の児童は非常階段から避難



資料に目を通す子ども記者



旧堀切小学校の跡地から避難場所の方向を望む



避難訓練の説明をする糟谷幹生・元校長